

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

学園だより



小樽商科大学広報誌

vol.180

2016 AUTUMN



小樽商科大学



● CONTENTS ●

- 小樽商科大学緑丘奨励金授与式を挙行…………… 1
- 佐野力海外留学奨励金授与式を挙行…………… 1
- ビジネス・インターンシップ…………… 2
- マジプロ 2016W …………… 3
- 保健管理センター特別修学支援室を紹介します…… 4

- お酒と正しく付き合いましょう…………… 5
- おたる運河ロードレースに参加…………… 5
- 第 64 回緑丘祭・第 25 回緑宵祭…………… 6
- 小樽笑店 夜桜ライトアップ/「道新 地域げんき大賞」受賞… 7
- 編集後記・商大くんブログ…………… 7

■表紙について

今年の7月30日に行われた第50回潮まつりの「潮ねりこみ」の様子です。町内会、学校、企業などが、各グループを組んで、市内中心部から港まで潮音頭の曲に合わせて練り歩きます。本学からは、学生・教職員が多数参加し、小樽市民の方々と一緒に街を練り歩きました。

(題字は和田健夫 学長)

小樽商科大学緑丘奨励金授与式を挙

平成28年6月20日、本学第一会議室において緑丘奨励金授与式が挙

行されました。緑丘奨励金は、本学の教育・研究活動にさまざまな支援をいただいている公益財団法人小樽商科大学後援会からの助成により、前年度に優秀な学業成績を修めた学生18名に給付されるもので、学部は2・3・4年次生（各



5名)、大学院博士前期課程及びアントレプレナーシップ専攻は2年次生（各1名）、大学院博士後期課程は3年次生（1名）に給付されます。

授与式には公益社団法人緑丘会副理事長である福田恭一様にご出席いただき、和田学長から学生に賞状と奨励金が授与された後、和田学長及び福田様からお祝いの言葉と、多くの学生の中から選ばれたことを誇りに持って、様々な分野で活躍してほしいとの期待の言葉が贈られました。

佐野力海外留学奨励金授与式を挙

平成28年7月20日、本学の大会館多目的ホールにおいて、佐野力海外留学奨励金授与式が執り行われました。佐野力海外留学奨励金は、本学におけるグローバル教育の推進を目的として、海外留学のために必要な経費を給付するものとして、本学のOBである佐野力氏のご寄附を基に平成27年度に創設されたものです。

今回給付を受けることとなったのは、学部専門共通科目「アジア・オセアニア事情」参加者20名と「ヨーロッパ事情」参加者2名の合計22名です。アジア・オセアニア事情参加者はオタゴ大学（ニュージーランド）に3週間、ヨーロッパ事情はウィーン経済大学（オーストリア）に約2週間、いずれも夏季休業期間中の研修に参加します。



授与式は、佐野氏の名代である三嶋氏および和田学長をはじめ本学の役員の列席の下行われ、学長から、お祝いの言葉と共に、留学中は商大生の代表としての心構えと危機管理意識を持った上で海外での見聞を広げて欲しいと激励の挨拶がなされた後、奨励金の目録が各学生に手渡されました。

奨励金授与式に引き続き行われた懇談会では、平成27年度「事情科目」参加者も加わり、活発に情報交換が行われました。



ビジネス・インターンシップ

～先輩の体験談～

ビジネス・インターンシップは、共通科目「知の基礎」系の【社会連携実践】という授業科目のうちのひとつで、民間企業等における一定期間の研修・課題への取り組みにおいて、現実の仕事とそれを担うビジネスパーソンとの協働の実践を通じ、実社会で求められる資質と実務能力を高めることを目的としているんだ。今回は、昨年この授業を履修した4年生の2人（履修時3年生）に、インターンシップの感想を聞いてみたよ！インターンシップへの参加を考えている学生さんも、そうでない学生さんも、今後の参考にしてみてね！



林 恵莉子さん

【商学科 4年】

- インターンシップ先企業 三井住友海上火災保険株式会社
- インターンシップの期間 平成27年9月7日～平成27年9月11日
- インターンシップの内容、感想

このインターンシップでは、5日間のプログラムの中で、日常生活のどこに損害保険のリスクが潜んでいるか、損害保険をどうお客様に提供していくかなど、グループワークを通して答えを探しだし、また採用内定者の方との実践も交えながら、損害保険の業務と役割を知っていくというものでした。インターンシップの最終日には、これまでに学んだ損害保険業の知識を活かして、グループで将来必要な新しい保険を考え、発表するプレゼンテーション大会も行いました。このインターンシップでは、自分で考えながら損害保険業を学ぶことで、保険を扱う人間として何が重要ななど広い視点から保険業を学ぶことが出来ました。これを通し損害保険業で働くというイメージを具体的にすることが出来たと感じます。また、このインターンシップでは損害保険業を知るだけでなく、5日間のグループワークで自分を知り、成長させるプログラムでもありました。グループワークを補助してくれる採用内定者の方からフィードバックをしてもらっただけでなく、5日間同じメンバーでグループワークをすることで互いの強みや弱みを教えあうことで、他者からみた自分がどんな強みや弱みを持っているのか知ることが出来ます。これを通し、5日間の自分の変化を知り、また自分への理解に繋がったので就職活動を迎える際にも自己分析の材料の一つになりました。これ以外にもグループのメンバーと5日間のプログラムを乗り切ること達成感も得ることが出来たので参加してよかったです。



写真1段目の右から2番目が本人

蛸島 航さん

【商学科 4年】

- インターンシップ先企業 Mira Design Corp. (アメリカ)
- インターンシップの期間 平成27年9月中旬～10月中旬の1ヶ月間
- インターンシップの内容、感想

このインターンに参加を決めた理由は、以下の3つです。一つ目は、当時、自分が将来やりたいと思っていたことを実際にやっている企業だったので、働いてみることで肌感を持てると思ったため。二つ目は、就活で生きるだろうと思ったため。三つ目は、最寄駅がタイムズ・スクエアの職場で働く自分を想像したらカッコいいと思ったため、です。

Mira Design Corp. という会社は、日本の素敵なプロダクトをアメリカを中心に世界中の人たちに届けよう、という想いのもと、日本ブランドの海外進出を手助けすべく、マーケティング支援及び営業支援を行っています。私が課された業務は、日本の某ブランドのアメリカ市場進出戦略の立案でした。つまり、どうやったらこのブランドが売れるのかを考えるということです。私は、あらゆる EC サイト（商品やサービスを、インターネット上に置いた独自運営のウェブサイトで販売するもの）を漁ったり、実店舗に足を運んだり、SNS を調べたりして、少しずつマーケットの感覚を身につけていき、このブランドを取り扱っている日本の会社と連携を取りながら、商品の選別や、商品のみならずブランド全体のデザインの設計を行うなどしました。

この仕事は学びが多く、とても有意義なものでした。一番の収穫は、社長のお話を伺えたことです。特に印象に残っているのは、養うべきスキルの話で、「常日頃から良いものに触れ、それがなぜ良いのかについてひたすら考え、良いものを見極める目を養いなさい」と教えてくれました。

このインターンを通して、将来成し遂げたいことに対して、自分が進むべき方向がかなり明確になりました。ですので、インターンシップはぜひ行くべきだと思います。





「マジプロ2016W」

最終成果発表会がおこなわれました!

2008年(平成20年)から開講している「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(通称:マジプロ)」は「社会連携実践ⅠcⅡcⅢc(担当:大津晶准教授)」という本学の正課科目で、これまで約360名の学生が履修し76プロジェクトが実施されてきました。



そして、今年1月から6ヶ月間活動していた「マジプロ2016W(*WはWINTERの略)」の学生の最終成果発表会が、7月10日(日)本学で行われました。発表会には、学外のゲストなど10名の方をコメンテーターとしてお招きし、履修生22名6プロジェクトの成果発表に、様々な意見やご感想をいただきました。



学生の成果発表会の前後には、基調講演やトークセッションも開催しました。基調講演は、北九州市立大学 基盤教育センターの眞鍋和博教授をお招きし、同大が取り組む地域連携・実践型教育の展開についてお話をいただきました。また、トークセッションでは、基調講演でご登壇いただいた眞鍋教授のほか、京都の複数の大学と連携し地域連携型教育に取り組むNPO法人グローバル人材開発センターの行元沙弥氏と、本学卒業生で現在、北海道浦河町議会議員の武藤拓也氏をお招きし、学生の活動が地域に及ぼす影響や地域と大学の関係についての意見を交わしました。



当日は、地域の連携先や協力先も含め約70名の皆様にご来場いただきました。

地域の皆様との連携と協力があって成立するマジプロは、今後も、学生への変わらぬ愛情と叱咤激励をいただきながら加速度的に進化し続けます。



マジプロ2016Wのプロジェクトチームの活動

本気 MOTTAINAI	3名	食品ロスを減らすため、フードバンク活動の実施と広報。子供食堂などのイベントを開催。
社会教育の充実	3名	18歳選挙権適用前に、啓発活動を実施。高校での出前講座や、学内での模擬投票イベントを実施。
小樽観光客の満足度向上	6名	外国人旅行者に、抹茶点てを通し、小樽の和菓子や歴史を知ってもらうための体験型旅行商品の検証。
ヘルスツーリズムの推進	2名	パークゴルフ場の新たな活用方法を、ヘルスツーリズムの視点で考え検証。
小樽の食文化の情報発信と認知度向上	4名	新1年生に、小樽の食文化や飲食店を知ってもらうための紹介冊子「たるぼーと」を制作。
梁川通りの活性化	4名	学生4名が約1ヶ月間、商店街に交代で住み込みFacebook等で情報発信。子供向け寺小屋も実施。

服部 隆太 (商学科2年)
マジ
本気 MOTTAINAI

*写真: 真ん中

私は今回マジプロに参加して、自分の非力さを痛感しました。様々な困難にぶつかり、社会の中で本気になって大人と関わることで、自分も本気になりました。また、人との出会いや繋がり大切さも知りました。



白田 明日香 (商学科2年)
社会教育の充実

*写真: 右側

中途半端だった私は、本気になる覚悟を決めて変わりました。想いを形にする喜びを知ったこと、小樽のために活動している方々と関わる事ができたことは私の宝物です。今後も、小樽に関わっていききたいと思います。



Facebook「小樽商大マジプロ_ページ」。各プロジェクトチームの活動を随時配信中です。 <https://www.facebook.com/oucmaji/>

保健管理センター特別修学支援室を 紹介します

本学では障がい（身体障がい、発達障がい、精神障がい、病弱・虚弱等）のある学生の皆さんの「学ぶ権利」を保障するために、保健管理センター特別修学支援室を開設しました。

特別修学支援室では、授業を担当する教員や学内外の各部署と連携し、それぞれのニーズに合わせて、次のような各側面から大学生活をサポートしていきます。

学生生活に関わる 支援

授業を受ける上で必要な配慮について、学生、担当教員と調整を行う

施設の バリアフリー化

段差や階段など、移動の妨げとなるものの改善について各部署と協議する

健康面に関する 支援

健康・対人関係に関する悩みや不安に対する相談を行い、その解消を目指す

進路に関わる 支援

就職に関する情報を収集し、キャリア形成に向けて学内外と調整を行う

啓発活動の実施

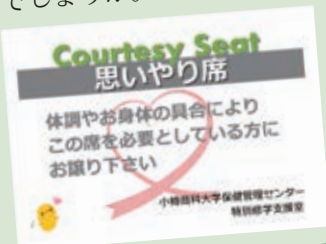
共生社会に向け、学生・教職員に対する啓発活動（講演・ワークショップ）を行う

ピアサポート 活動

学生による学生への支援（ピアサポート）の本学への導入を目指す

※思いやり席についてのお願い

講義室の机に下のような表示があることにお気づきでしょうか。これは障がいのある学生や体調の悪い学生のための優先席です。



譲り合いの気持ちをしてどうぞ大切にしてお使いください。

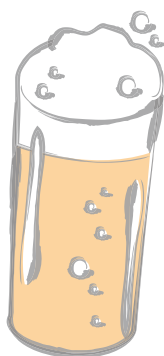


特別修学支援室（3号館4階）

電話：0134-27-5241 メール：soudan@office.otaru-uc.ac.jp

お酒と 正しく付き合いましょら

小樽
大樽



成人、未成年にかかわらず大学生は飲み会などのお酒が提供される場に参加する機会が少なくありません。主催者も参加者もお酒による事故や健康被害が起こらないように常に気を配る必要があります。

❗ してはいけない、させてはいけない3つのこと

未成年者飲酒

未成年者は飲酒は厳禁です。また、20歳の誕生日を迎えたからといって急に大量に飲み始めることは危険です。

飲酒運転

飲酒運転は自動車だけでなく自転車も原付も禁止です。飲んだら運転はできません。

アルコールハラスメント

飲酒の強要、イッキ飲ませ、意図的な酔いつぶし、飲めない人への配慮を欠くこと、酔ったうえでの迷惑行為—これらは全てアルコールハラスメントです。

❗ お酒と上手に付き合うためのポイント

お酒に弱い人もいる、お酒に弱い時もある アルコールを分解する酵素ALDH2型の活性が低い、あるいは欠けているタイプの人々が日本人で約46%と言われています。酵素の活性が低いと少量の飲酒でも有害物質であるアセトアルデヒドが体内に蓄積し、悪酔いしやすくなります。この体質は生まれつきのもので、努力して飲めるようになるということはありません。今年度実施したアルコールパッチテスト（学生366人が参加）でも、このタイプの人々が約40%でした。活性があるタイプの人でも、その日の体調によっては酔いやすくなることもあります。飲めない人、飲みたいくない人にお酒を強制することは危険です。

飲んでもほろ酔いまでに 酔いの段階には爽快期—ほろ酔い期—酩酊初期—酩酊期—泥酔期—昏睡期の6段階がありますが、楽しく飲めるのはほろ酔い期までです。気が大きくなったり、大声でがなりたてる、怒りっぽくなる、立てばふらつくなどは酩酊初期の症状ですので、このような症状が出るほどは飲まないようにしましょう。

適量には個人差が 一般的に「節度ある適度な飲酒」と言われるアルコール量は20g（ビール500ml）ですが、これはALDH2型の活性のあるタイプの男性の量です。女性や活性の低いタイプの人々はこれより少量とされています。もちろん、飲まない人に勧めているわけではありません。

おたる運河ロードレースに参加

平成28年6月19日（日）に第28回おたる運河ロードレースが開催されました。同大会は、毎年3,000人以上のランナーが集まるものですが、本学からは今年度ランナーの他、円滑な大会運営のためのボランティアスタッフも含め学生、教職員およびOB約200人が参加しました。

なお、レース参加者は参加料が必要となりますが、今年度は、本学OBである新山邦幸氏からの寄附金により支援いただいております。そのかわり、参加者から別途寄附を募り、今年4月に発生した熊本地震の災害義援金として社会貢献に活用させていただきました。

大会当日は、天候にも恵まれ、沿道から市民の方々の温かい声援もあり、多くのランナーが小樽の街を走りました。後日学内表彰式が本学図書館で行われ、和田学長と新山氏から学内参加者中の成績優秀者に対してトロフィーが授与されました。



第64回緑丘祭 第25回緑宵祭

6月23日～24日に第25回緑宵祭（夜間主コースの大学祭）が、6月24日～26日に第64回緑丘祭（昼間コースの大学祭）が開催されました。今回は、そのうち緑丘祭について取り上げています。学生の皆さんや地域の方々のたくさんの参加が見られ、大盛況となった緑丘祭。一体どんな舞台裏があったのでしょうか？今回は緑丘祭実行委員会委員長、大門拓史さんに今年の緑丘祭について語っていただきました！



緑丘祭実行委員会委員長
大門拓史さん

緑丘祭のテーマについて語っていただけますか？

今回の緑丘祭のテーマは『のぼればそこは夢の国』というテーマでした。そのコンセプトは小樽商科大学の名物である地獄坂をメインとしてアピールするとともに、その坂を上った先には普段通りの学校ではなく、夢のような国に変わっていると面白い。そんなイメージを持ってテーマを決めてみました。



今回の緑丘祭で前回とは違う取り組みはありましたか？

今年は知っての通り芸能人企画が昨年とは違い、大きな盛り上がりを見せましたね。

もう一つは、サークル団体の出店にも大きな変化がありました。昨年までは、スペースの問題やテントの数の制限などの様々な事情があり、出店できる団体を抽選で決めるという方法をとってきました。

ですが、学生のために催されているお祭りなのに、出店できない団体が出てきてしまうのは可哀想です。そこで今回は図書館前のスペースを利用したり、外部からテントを借りて来たり、色々な工夫を施すことで希望団体すべての出店を実現することができました！



たくさん、苦労したこともあったのではないのでしょうか？

もちろん、ありましたよ。

今年は新しいチャレンジをたくさん取り入れた緑丘祭でした。その分、失敗したこともありましたが、逆にうまくいったこともありました。

例えば今年の緑丘祭は、2日にわたって雨が降ったんですね。今年はいつもよりも雨天対策を入念にしておいたおかげで、良くも悪くもうまくいった形となりました。

それでは最後に、これからの緑丘祭について語っていただけますか？

今年は多くの企画がありました。屋外企画はもちろん、屋内企画も年々進化を遂げています。今年のお化け屋敷は和風のホラーで、屋内メイン企画として大いに盛り上がりを見せました。

来年はさらにパワーアップしたお化け屋敷と、新しい企画で緑丘祭を彩るかもしれませんね。

第65回の緑丘祭も今年以上のものを作り上げていこうと思います。楽しみにしてくださいね！



大門拓史さん、素敵なお話をありがとうございました！



小樽笑店

夜桜ライトアップ / 「道新 地域げんき大賞」受賞

小樽笑店 谷口 公介



小樽笑店は5月6日に初の試みとして、「夜桜ライトアップ」というイベントを商大構内にて開催しました。イベント全体としては構内の桜のライトアップだけでなく、小樽笑店によるヨーヨー釣り企画や軽食販売、ライトバルーン装飾も実施し、大学の新たな魅力を商大生および大学関係者、小樽市民に発信できたのではないかと考えております。

イベント当日はあいにくの雨天でしたが、商大生だけでなく多くの市民の方々が大学に訪れ、夜桜を写真に収める姿や企画を楽しむ姿を目にしました。また、小樽笑店が日頃お世話になっている外部の団体の方々

も来てくださったこともあり、イベントの成果を身近に実感できました。

また、このイベントと同時期に、小樽笑店は北海道新聞社より「第3回(2016)道新 地域げんき大賞」を受賞しました。この賞は地域に根差し、次世代の担い手として社会に貢献している個人・団体に贈られるもので、小樽・後志管内の代表として選ばれました。今年で創立から9年目を迎える小樽笑店ですが、創立時から部員が築き上げてきた活動や市民の方々との交流が今回このような形で実を結んだこと、そのような活動に今まで携われたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

普段は小樽市内の商店街や公共施設を主としてイベントやボランティアを行っている私たちですが、今回このような大学内でのイベントや、栄えある賞の受賞といった形で日頃からお世話になっている方々や大学に恩返しすることができたのではないかと思います。そして、そのことが大変嬉しくもあり、今後も仲間と協力しながら小樽や商大に貢献できるような活動を行っていききたいと思います。



1列目左から4人目本人

編集後記

学園だよりは、毎号、教職員および学生の皆様の協力を得て作成しています。今回も、多くの方にご協力いただき、本当にありがとうございました。

今後も、商大生の活動・学生生活等について幅広くお伝えしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。
(学生支援課)

小樽商大の新鮮な情報を毎日発信!

ブログ「商大くんがいく!」



商大若手職員と学生がタッグを組んで作っている「商大くんがいく」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内のさまざまな旬のトピックスがご覧になれます。
<http://www.otaru-uc.ac.jp/shoudai-kun/>